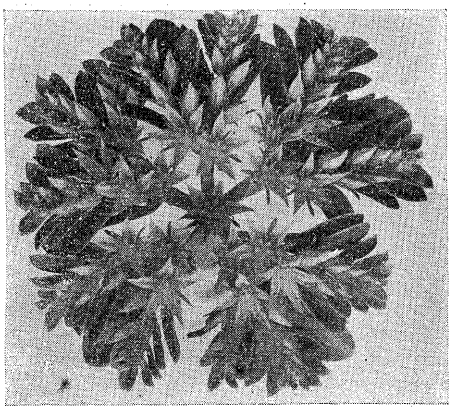
ていない。上述の Isachneae のような変異型も含んでいるが，この形質においても大きな一様性が指摘される。

以上，Paniceae 以外の族はなお今後の研究によつて追求されねばならないが，Paniceae はまとまつた群と考えられ，一つの系統的な枝をつくつているものと推定される。

引　用　文　献（前報に記したものを除く）

Brown, W. V. 1948 Amer. Jour. Bot. **35**: 382–395.　Burton, G. W. 1942 Amer. Jour. Bot. **29**: 355–359.　Hubbard. C. E. 1934 in J. Hutchinson's Fam. Fl. Pl. ———— 1943 Hook. Ic. Pl. **35**: Tab. 3432.　Hunter, A. W. S. 1934 Canad. Jour. Res. **11**: 213–241.　Pilger, R. 1940 in A. Engler's Nat. Pflanz. Aufl. 14e. Potztal, E. 1952 Bot. Jb. **75**: 551–569.　Tateoka, T. 1954 Cytologia **20**: 296–306.

○キリンソウの花序の葉（久内清孝）Kiyotaka HISAUCHI: On the folious inflorescens of *Sedum kamtschaticum*

キリンソウ類の花序を見ると，花下の苞葉が，多肉でわりに大きく，苞というよりも葉とよびたくなる。Linne も *Sedum Aison* の条下で Corymbo folioso とかいている。私の栽培している産地不明のものにおいては，とくに顕著であるので科・博・の腊葉展(1956) に出品しておいた。また，それを上から写したものがこの写真である。その後，かつて男鹿半島からもつて来たものも，よく見るとおなじことをやつていることから考えると，これがこの植物の常態なのかも知れない。しかし一般的の本を見ると「茎頂に繖房状聚繖花序をなして多数の黄花を開く」などとかいてあるが，花序に葉をつけるとはかいてない。もっとも，ホソバノキリンソウでも，これでも，其他のものでも見られることだから略したといえばそれまでだが，他のものに比してキリンソウやホソバノキリンソウでは著しく目につくのである。同じことだが，タイトゴメ，マルバマンネングサ，コモチノマンネングサなどでは小さいだけである。